

テーマ 「新聞に親しみ、言語活動の充実を図る実践について」
～日常的な活用、授業での活用、家庭での活用を通して～

1. はじめに

本校はH20～H21において実践校として6学年での実践を行ってきた。この2年間では「新聞に親しみ、新聞から様々な社会の出来事について興味・関心を持つこと」をねらいとしてきた。2年間の実践を通して、子供たちが徐々に新聞に親しみを持つようになり、新聞が身近なものとなってきたと感じた。

そして、H22～23年度は推進校に指定され4～6年生を中心に取り組んできた。この2年間は新聞活用を広げていくことを重視して実践を行い、6年生を中心に実践を広げてきた。6年生においては新聞を活用した授業を通して、言語活動を充実させることを目的とした。4,5年生では「新聞に親しみ、自分の考えを持つこと」を目的とした。また、本校での校内研修のサブテーマにおいても「言語活動を充実した指導」が設定されている。そのため、NIEの実践も校内研修と関連づけながら実践してきた。そのため教師は日常生活、授業、家庭でどのような新聞活用ができるのか、そして、NIE活動を通してどのように言語活動を充実させていくことができるのか、という視点を持ちながら実践を試みた。

2. NIE高めたい力

本校の校内研修のテーマの中心である「聞く力・話す力を高める言語活動の指導」と関連付けてNIE活動を実践した。実践を通して高めたい力を以下に述べる。

<6年生>

- (1) 自分の思いや考えを分かりやすく表現する力
 - ・記事から読み取ったことを5W1Hに意識しながらまとめる。(表現力)
 - ・記事について自分の考え・意見を持つ(思考力)
 - ・話し合いの中で相手の意見と自分の意見を比べながら聞き、話し合いを通してさらに自分の考えを深める(思考力、表現力、判断力)
- (2) 広い視野に立って考える力
 - ・記事について自分の思いや考えを伝え合う活動を通して、コミュニケーション能力を高めると共に社会的事象を多面的に考える力

<4,5年生>

- (1) 自分の考えを持ち、表現する力
- (2) 相手の意見をしっかり聞く力

3. 実践の概要

学年	教科・領域	実践内容
4年	・国語 ・社会科 総合的な学習の時間	・国語での活用 単元名「アップとルーズ」で伝えよう ・新聞作りでの活用
5年	・国語 ・社会科 総合的な学習の時間	・社会科で写真、記事を活用 ・国語での活用「新聞を読もう」 ・1分間スピーチ ・朝の会などでの紹介 ・出前記者による新聞の書き方講座

6年	・国語 ・社会 ・算数 ・図工 ・体育 総合的な学習の時間 日常活動：スピーチ ファミリーフォーカス	・国語：「新聞の書き方、記事のまとめ方」 ・社会：政治、国際、環境、歴史 ・算数：割合 ・体育：エイサー指導で写真を活用、スポーツ記事、写真の活用 ・記事について親子で話し合い
----	---	--

4. 実践をするにあたっての工夫

(1) 教師間の工夫

- ・各学年とも学年で共通理解を図り、活動を進めていくことを心がけた。
- ・教師間で活用方法、効果などの情報交換を行った。
- ・各学級に新聞を配布する新聞係を設けた。新聞はクラス順で配布した。
- ・活用方法は学年で教材研究をした。

(2) 新聞に関心を持たせる工夫

- ・1分間スピーチの内容を社会的な出来事をテーマにした。
- ・朝の会や授業などで新聞記事を紹介した。
- ・児童が関心ある記事を自由に収集させ、グループや全体で紹介した。
- ・児童の作文等を投稿し意欲を高めた。
- ・4コマ漫画を活用した。
- ・新聞コンクール等に出品した。
- ・常に児童が新聞を開けるよう教室に新聞を置いたり、また掲示板に新聞を掲示した（りゅうポン、ワラビー）

(3) 話し合い活動を充実させるための工夫

- ・1分間スピーチをする際に話し手・聞き手共に自分の感想・意見を持たせる。
- ・日頃から教師や児童が紹介した記事について話し合いをさせる。（2，3分程度でもよい）
- ・話し合いでどんな意見が出たのかを発表させ、意見が多くでたグループ、考えが深い意見に対して褒めてあげる。
- ・日頃から自分の物事に対して自分の考えを持つよう指導する。

5. 実践の実際

日常での活用

●1分間スピーチ：～伝え合う力を育てる～（言語活動の力）

- ・関心のある記事を収集し5W1Hを意識しながら記事をまとめスピーチを行う。

話し手・・・聞き取りやすいように話す

聞き手・・・メモを取りながら聞く。

教師・・・スピーチの内容を質問する。

全体・・・記事を読んでいるグループや全体で感想・意見交換をする。

<成果>話す態度、聞く態度がしっかり身に付くようになった。特に聞き手はメモを取るためにしっかり聞くようになった。話し合いの場を持つことで自分の考えを持つことができるようになった。

授業での実践

(1) 総合的な学習：～伝え合う力を育てる～（言語活動の力）

①関心ある記事をまとめ発表し合い、意見交換をする。

関心ある記事を収集し、まとめる。選ぶときにはまず、新聞の見出しを全部読んだ後に、記事を探す。グループ内でお互いの記事を発表し合い、その後、題材を一つ選び、グループで話し合い活動を行う。その際、必ず一人一人意見を述べることにした。最後に、グループでの話し合った結果を全体で発表する。



関心ある記事を選ぶ



記事をもとに話し合い活動



まとめた記事

②スクラップ新聞～社会事象に対して関心を持ち、考えを深める～

テーマを各自で決め、記事を収集し、まとめる。収集していく作業を通して、現在世の中に起きているさまざま出来事について関心を持つようになった。また、収集した記事の中でどの記事を載せるのか考えたり、レイアウト、見出しを自分なりに考える活動を通して「考える力」も身につけてきた。



(2) 社会科：社会的事象に対して関心を持ち、考えを深めていく力

- ・社会科の単元「日本とつながりのある国々」のまとめとして、グループで調べたい国を決める。調べたいことをグループで話し合いインターネット、図書館、新聞を使って調べる。調べたことについて話し合いをし新聞記事を作成してく。活動を通して、情報収集力が身につけてきた。また、作成の段階で話し合いを通して、自分の考えをより深めることができた。最後は発表会を行った。

(3) 国語：単元名「アップとルーズで伝える」

- ・新聞に掲載されている写真を見て、気づいたことを発表した。単元を進めるにあたって興味・関心を持たせることができた。また、普段子供たちがなかなか新聞を開く機会なかったので、新聞活用は親しませる良い機会となった。



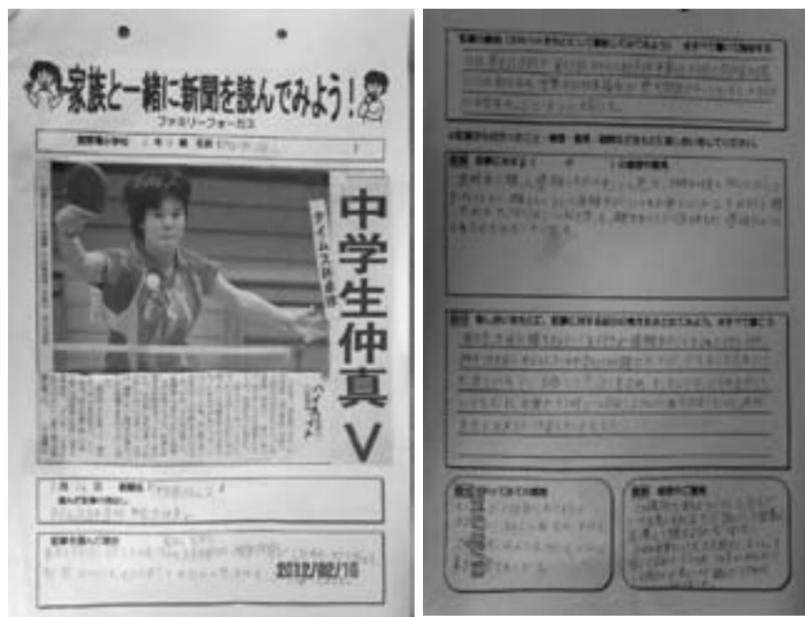
家庭での実践

- ファミリーフォーカス～社会的事象に対して関心を持ち、考えを深めていく力～
～親子のコミュニケーションの場～

・親子で関心ある記事を選ぶ。児童が記事をまとめ、親子で記事について話し合う。月に1～2回のペースで実施した。この活動を通して児童以上に親からの反響が大変大きかった。親子のコミュニケーションの良いきっかけとなった。

保護者からのコメント

- ・ただ読んでいた新聞を子供が深く考えて読むようになった。子供の成長が見れてとても良かった。
- ・新聞が身近な物になってきていると感じました。
- ・なかなか一緒に意見を言う機会がないので、それができてとても良かった。子供の成長を感じることができた。
- ・子供の視点からの意見が聞けてとても良かった。
- ・見たい、知りたいという子供の好奇心を育てるために新聞はとてもいいと思います。



環境づくり

- ・児童が身近に新聞を見る事ができるように図書館司書とも連携し、図書館に新聞コーナーを設置した。また教師向けの新聞活用方法の資料も掲示した。さらに、NIE 掲示板を設置した。6年生はNIE 係を置き、掲示板に毎週を掲示したり、各学級の作品等を掲示した。



図書館の新聞コーナー

NIE 掲示板

6. 成果と課題

- 4年間継続した指導により、さまざまな新聞活用方法を習得することができ、子供、教師にとって新聞が大変身近なものになった。
- 年間を通して新聞を活用した1分間スピーチをすることにより、記事をまとめることが上達した。また聞き手も目的意識を持って聞くことができるようになった。
- 子供達が社会事象に関心を持つようになり、また、事象について自分の考えを持つようになった。
- 新聞活用を通して子供達の言語能力が高まった。その中でも話し合い活動では子供達が自分の考えをもち、お互いで考えを深め合うことができた。言語活動を充実させる手段として、新聞活用が大変有効であること実感することができた。
- ファミリーフォーカスの活用を通して、親子のコミュニケーションが増え、また親にとって子供の成長を実感できた。
- 学年で取り組むことで、学年全体に成果が見られた。
- 記事の内容をまとめることに抵抗感がある児童への指導を考えていく必要がある。
- 必要な情報を児童のみに取捨選択させるのは難しいので、教師が支援しなければならない。そのため、担任だけでは支援が困難である。
- 新聞を活用した授業展開をするための時間の確保が難しい。そのため、教材研究を綿密に行い、計画を立てなければならない。
- 新聞活用を学校全体に広げていくためには、研修が必要不可欠である。その研修時間を確保するためには、学校全体でのサポートが必要である。(校内研とのタイアップ、校務分掌への位置付け等)

7. おわりに

四年間の実践を通して、子供が新聞を身近に感じるようになり、社会に関心を持つようになったことが大きな成果である。また、教師にとってもさまざまな活用方法を知ることができ、新聞がより身近な教材として実感することができたことも大変大きな成果である。そして、何よりも大きな成果は、「言語活動の充実」が現在の教育で叫ばれる中で、新聞活用がその課題を解決する一つの手段として大きな役割を果たしているということを実感できたことである。今後はさらに「授業でどのように活用していくのか」ということが課題である。新聞記事をそのまま児童に配布しても、授業に活用することはできない。新聞はあくまでも素材であり、授業で有効に活用するためには新聞を「教材化」することが必要である。

実践を通して教材化することで授業で有効活用することができた。小学校において社会をやる第一歩として、また言語活動を充実させる、さらには親子のコミュニケーションの手段として新聞活用が非常に効果を発揮することを体験した。4年間の実践を通して確かな成果が得られたことを実感している。